

私が「一步の会」にボランティアとして参加したのは東日本大震災の前年の2010年の秋頃からと記憶しているからかれこれ8年目になる。一步の会とは何ですかと尋ねられたら、「カトリック豊島教会の路上生活者支援グループです」と答えている。一步の会とは、即ちホームレスのオジサン達のためにお弁当を作り献品された衣類などと一緒に西池袋公園に運び配る奉仕活動である。一步の会のそもそもの始まりとは、豊島教会新聞によると次のような記事が載っていた。『教会の門から出て出来ることの中に「ホームレスの方々への何か？」が有りました。約一年、教会から歩ける範囲の中で先ずは見て歩きました。それから「月に一回でも“おむすび”を持ってきたら、受け取ってもらえますか？」と聞いて歩きました。教会の有志の方々と「とりあえずやって見ましようよ」と試行錯誤の中で一步を踏み出しました。初めは、15人分の「おむすびパック」を持ってウロウロしました。受け取っていただくのにかなりの勇気が要りました。それから楽しいことが沢山ありました。公園の人達は皆一様に優しく、遠慮深く、つつましく生きています。』 一步の会が活動を初めて17年目、今では公園のオジサン達の生活の1ページにしっかり根付いているのである。

毎月、最後の金曜日の午後4時に豊島教会に20名前後のボランティアが集まり作業を始める。献品された衣類は、季節に応じていろいろな物が集まってくる。それをオジサン達に渡しやすくするために仕分け・分類する。平行して女性が中心となり、ご飯を炊き、おむすびを握って120人分のお弁当を作るのである。これには大変な労力と人出を要する。参加ボランティアが少ない時には、時間の制限もあるので一人何役もこなしてスピーディに仕上げなければならない。そんな慌ただしい時間帯、この会のリーダーから「美味しいお弁当を作ってオジサン達に喜んでもらいましょうよ」と励ましの声がかかる。

昨年末の一步の会では、オジサン達に何かクリスマスプレゼントをしましょうという事になり、焼肉弁当を作った。肉タプリ具沢山の盛り弁当は中々美味しく出来上がり、オジサン達にはとても喜んでもらい好評であった。そして、この弁当にそれこそ具沢山の味噌汁を添えて届けている。一方では、某有名フランスパン工房からは、一個200円から400～500円もする香ばしくて美味しいパンが惜しみもなく沢山届き、オジサン達のために献品して下さる。とても有り難いことで感謝である。

出来上がったお弁当は、まず神父様に差し上げて食べていただき、それからカトリック教会信徒や我々を含めたボランティアが一同に介して、お祈りしてから同じ物をいただくのである。オジサン達と同じ食卓を囲むことは出来ないが、これが「主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いのさかずきを飲み、主にあつてわれらはひとつ」という一連の所作を再現しているのだという事に気付かされ、思いを新たにした。

やっとの思いで夕方7時に公園に到着すると、今や遅しと120～140名のオジサン達が順番に列を作って待っていてくれる。順序としては、まずお弁当を配り、味噌汁を受け取ってもらう。お弁当が足りなくなったらパン工房からのパンを配る。それから衣類や日用品を並べているコーナーに移動してもらう手筈になっている。これが既に暗黙のルールとして出来上がっており、大方のオジサン達はこれを守ってくれる。しかし、ある日、ルール破りのオジサンが突然、列から飛び出

して衣類コーナーに駆け込んだ事があった。そうすると順番に列に並んでいたオジサン達が怒鳴り声を上げて騒ぎ出した。トラブルが起きること間違いなし！！そこで勇気を出してルール違反のオジサンに詰め寄り、並んでいる皆が平等に少しでも公平になるように我々も努力しているのだから協力して下さいと言い寄った。そこまですると例のオジサンもその場の雰囲気を感じて元々の鞘に収まった。多分、新人の日の浅いオジサンだと思われる。

お弁当を配る時には、なるべくひとり一人にお待ちどうさまとか、今日の弁当は美味しいですよとか声をかける事にしている。お弁当を受け取っても無言の人、通り一遍に礼を言う人、有難う、楽しみに待っていたんですよと何度も礼を言うオジサンと様々である。



お弁当を配り終わると衣類日用品コーナーに駆けつける。カラフルなシャツはないかね、カミソリは、石鹸は、靴下はないかねと次々に催促してくるオジサン達が現れる。探し出してやるとニコニコして受け取ってくれる。オジサン達は中々どうしてオシャレなのである。

この一連の流れが7時に始まって15分か20分も経過すると、あれだけ大勢いたオジサン達はすっかりどこかに消えてしまっている。そんな時、ふと今日も終わったという安堵感と疲労感が重なり合い、何か満たされた時間の訪れを感じるのである。

どんなにオジサン達がホームレスから抜け出したいくてもそれぞれに諸々の事情があり、今日・明日には簡単に抜け出せない人が大勢いる。そういう人達のことを忘れないでいることに、ささやかではあるが日々の生活が送れる幸せの原点があると思うのである。主に感謝を捧げ、これからも活動に参加しよう。

完